



写真等無断転載禁止

子どもの自然体験の多い・少ないによる 積極性・探求力・協調性・自己肯定感・自律性の違い

東京都江東区 中村 俊彦
千葉市中央区 山崎 裕美子
佐倉市 小西 由希子

はじめに

国立青少年教育振興機構は、令和3年3月、同青少年教育研究センター編の「青少年の体験活動等に関する意識調査（令和元年度調査）報告書」を公開した。これは、子どもの心身の諸側面、社会経済的との背景を広範に調査研究した成果報告である。私たちは、そのなかの子どもの自然体験と、自律性、積極性、協調性（p. 81, 82）、自己肯定感（p. 87）、探求力（p. 96）の調査結果に着目し、さらなる解析を試みた。

青少年の体験活動等に関する意識調査の内容と結果

この調査は、令和2年1月～4月に小学4、5、6年生と中学2年生、高校2年生の14,477名と小学生の保護者12,742名を対象にしたアンケート回答に基づくもので、子どもの自然体験について「多い」「やや多い」「ふつう」「やや少ない」「少ない」の5段階で問い、また自律性、積極性、協調性、自己肯定感、探求力にかかわる行動や生活習慣等に関する質問をしている。この行動や生活習慣等に関する質問の回答から、子どもの積極性、協調性、自律性、探求力について「高」「中」「低」の3段階評価し、また自己肯定感については、「やや高い」と「やや低い」を加えた5段階評価をしている。そして自然体験の違いと自律性、積極性、協調性、自己肯定感、探求力についての評価をクロス集計した結果を

図化し、自然体験が豊富な子どもほど、自律性、積極性、協調性、自己肯定感、探求力のすべてで高まる傾向を示している。さらに自律性、積極性、協調性については、子どもの自立的行動習慣の指標とし、いずれも自然体験が豊富な子どもほど、この自立的行動習慣、また自己肯定感や探求力が身につく傾向があるとしている。また自然体験の多い子どもは、道徳観・正義感が高い傾向も明らかにされている（p. 91）。さらに、世帯年収が大きい世帯、また自然体験が多い保護者ほど、その子どもの自然体験が多くなる傾向が指摘されている（p. 103, p. 105, 106）。

自然体験と自律性、積極性、協調性、自己肯定感、探求力の関係性解析

自然体験と子どもの自立的行動習慣等との関係を、簡潔かつよりわかりやすくするため、公開データを用いて以下のような解析をおこなった。

自律性、積極性、協調性、自己肯定感、探求力の評価、「高い」、「ふつう」、「低い」のそれぞれに3点、2点、1点、また自己肯定感の「やや高い」と「やや低い」それぞれに2.5と1.5点のスコアを与え、自然体験の程度ごとに平均値を算出し表1（①～⑤）に示した。また自律性、積極性、協調性、自己肯定感、探求力ごとに、自然体験の多い子どもの平均値と少ない子どもの平均値との差（⑤－①）も算出した。この自律性、積極性、協調性、自己肯定感、探求力における平均値は、さらに自然体験の「ふ

表1. 子どもの自然体験と積極性、探求力、協調性、自己肯定感、自律性の評価値

自然体験	少ない		やや少ない		ふつう		やや多い		多い		多-少差
	①	①-③	②	②-③	③	③-③	④	④-③	⑤	⑤-③	
積極性	1.93	-0.25	2.06	-0.11	2.18	0	2.31	0.14	2.48	0.31	0.56
探求力	2.16	-0.27	2.31	-0.12	2.43	0	2.52	0.10	2.66	0.23	0.50
協調性	2.12	-0.27	2.28	-0.11	2.39	0	2.49	0.11	2.60	0.22	0.49
自己肯定感	1.97	-0.30	2.11	-0.16	2.27	0	2.29	0.02	2.41	0.14	0.43
自律性	2.44	-0.12	2.53	-0.03	2.56	0	2.62	0.06	2.65	0.10	0.22
平均	2.12	-0.24	2.26	-0.11	2.36	0	2.45	0.09	2.56	0.20	0.44

つう」を原点とし、各自然体験程度の平均値差（○-③）を算出しその結果を箱ひげ図で示した（図1）。

自然体験と子どものこころの成長

子どもの自然体験と自律性、積極性、協調性、自己肯定感、探究力の総合的評価との関係分析の結果が表1と図2である。これにより、子どもは、自然

体験が多くなることによって、「積極性」、「探究力」、「協調性」、「自己肯定感」、「自律性」の全てが高まる傾向が示された。また自然体験によるこの高まりは、「積極性」で最も顕著であり、次いで「探究力」と「協調性」、さらに「自己肯定感」、「自律性」がつづく結果であった。

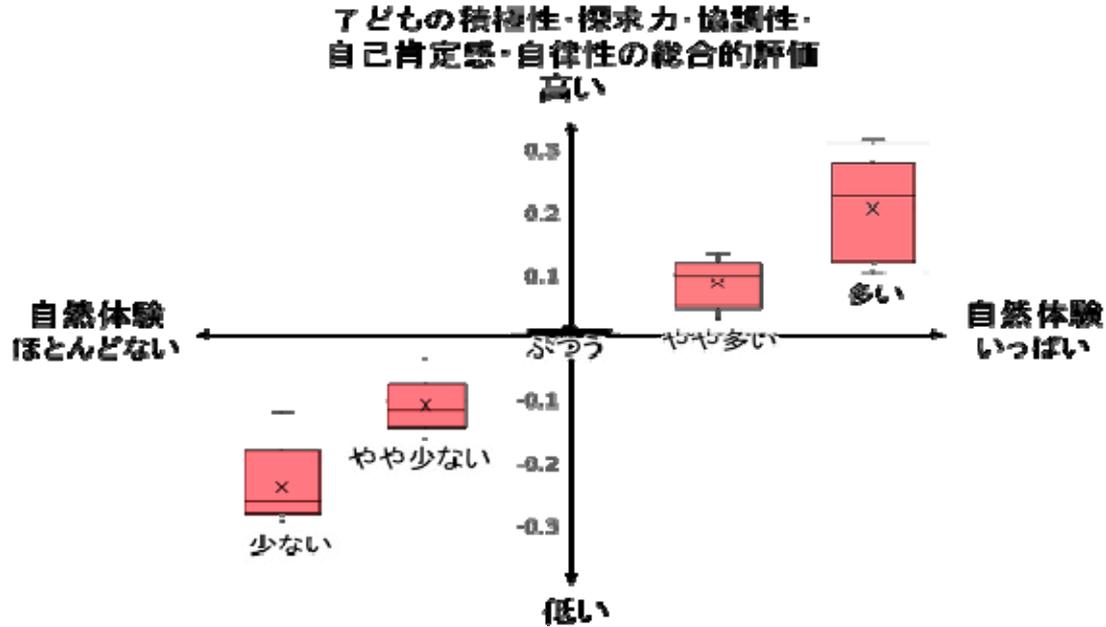


図1. 子どもの自然体験と積極性・探究力・協調性・自己肯定感・自律性の関係

もちろん、特定の自然体験の有無や多い少ないだけが、子どもの自立的行動習慣や探究力等を決定づけるものではない。今回の青少年教育研究センターの調査の（子ども）集計結果でも、個々の自然体験と行動習慣の習得の間に関係性が見られないものもある。例えば、「大きな木に登ったこと」「雪の中での活動」の多寡と「ルールを守って行動する」意識の間には有意な関連はみられない（https://www.niye.go.jp/research/download/taikenkatsudo_children/）。さらに、個人的に好きな体験、嫌いな体験もあるだろう。しかし、子どもが

気軽に様々な自然体験ができることは、実際の自立的行動習慣や探究力の向上、そして本人が「できているぞ」という自己肯定感につながることも期待できる。いずれにしろ、子どものこころ（思考・行動）の成長と自然体験については大きな関係性が指摘されたが、今後その関係を明らかにしていくためには、発達心理学や脳科学、動物行動学も包含する自然科学的研究とともに、これをさらに社会学や文化人類学、民俗学等の人文科学領域と連携・融合させる調査研究のアプローチが重要と思われる。

お米にまつわるミャンマーの話

～第5回：ミャンマーの家族と餅米の朝ご飯～

千葉市若葉区 岩沢 久美子

前回は、早朝便での出張のお話をしました。私がいた頃（2016年～2020年）のミャンマーは、GDP成長率は6%を超える急速な経済成長を続けていました（昨年の成長率は、国内の紛争激化の影響で18%となっています）。出張も多く、日々の業務

は非常に多忙なものでした。夫は他国で単身赴任のため、幼い娘を連れての子連れ単身赴任だったわけですが、それでも、日々元気に楽しく生活ができた背景には、私たちの生活を支えてくれた使用人の存在が大きくありました。

ミャンマーでは、メイド、ナニー（ベビーシッター）それから運転手の3人の使用人を雇っていました。彼らは全員、カレン族（カイン族）というミャンマーの少数民族の出身です。周りを見ても、メイドやナニーは圧倒的にカレン族が多かったです。カレン族はもともとカレン州というヤンゴンから東のタイ国境にある地域の民族ですが、英国植民地時代に多くのカレン族の女性が外国人家庭にメイドとして入っていた名残だそうです。

ミャンマーには3年半いたので、使用人たちともとても親しくなり、家族ぐるみで仲良くさせてもらっていました。なかでも、一番親しくなったのは、最も長い時間を共に過ごしたナ



ミャンマーのお赤飯

ニーのパオパオです。彼女は平日は我が家に住み込みで働き、週末だけ自分のアパートに戻る勤務体制だったので、3年以上の間、ほぼ一緒に暮らしたことになります。

小柄ながら人一倍元気で思いやりがあり、働き者の彼女は、私よりも10歳年下ですが、本当にしっかり者で頼りになる存在でした。カレン州の農村の出身で、軍政下で高校卒業の後、16歳の時から自立して生活した経歴を持ち、強さと優しさを兼ね備えていました。ミャンマー人の例にもれず子どもが大好きで、娘のことも自分の子どものように可愛がってくれました。ミャンマーではお互い贈り物をよくし合う文化がありますが、パオパオも何かにつけて娘によく贈り物をくれて、娘の誕生日にはワンピースを10着もプレゼントしてくれたこともありました。娘も彼女のことをとても慕っていて、週末パオパオが自分のアパートに帰ってしまうと「パオパオに会いたい」と泣いて私を困らせることもしばしば

でした。

そんな彼女が月曜日の朝、出勤する際、途中の市場でよく朝ご飯を買ってきてくれました。中でも娘と私の好物は蒸した餅米でした。ミャンマーではお昼にはおかずと一緒にパラパラのご飯を食べるのですが、朝ご飯や軽食がわりに餅米もよく食べます。いつも2種類あって、一つは小豆が入った餅米。日本のように小豆の煮汁で浸すことはないのですが、米の色は白いのですが、すりごまと塩をかけていただく小豆いりの餅米の味はお赤飯そのものです。もう一種類は、ターメリック入りで、色もきれいな黄色をしています。こちらは、生のココナッツを削ったものをかけて食べるのですが、削りココナッツのほのかな甘さとターメリックの香りが良くあって、非常に美味です。娘も私もこの餅米の朝ご飯を楽しみにしていました。好き嫌いが多い娘ですが、今もお赤飯は大好きです。娘にとって、お赤飯は今も大好きなミャンマーとパオパオの思い出の味なのかもしれません。



パオパオ(左上)の誕生日の写真。誕生日にはいつもお互いケーキでお祝いしていました。

新浜の話57 ～ちょっと脱線～

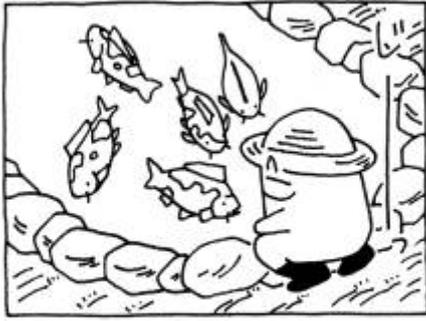
「それは、宗教的な理由から？」
1980年に初めて訪米した時、ジョージ（アーチボルド博士）に聞かれたこと。車の窓から飛び込んできた蝶を出してやった時のことです。当たり前のことですよね。蝶や他の虫が窓から入ってきたら（たぶんゴキブリに対しては態度が変わると思うのです

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

が。いかなあ)、ふつうは出してやると思います。蝶が人の魂の化身、というお話もたしかにあるのですが、だからと言って、宗教的な理由からそうするわけではないし、そういった考え方をしたこともありませんでした。生きているものの命を尊重するというのは当たり前のこと。

スロマン 22

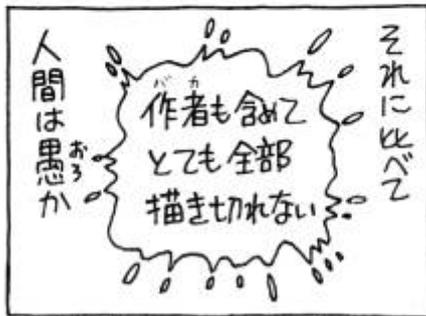
作:つやま
あきひこ



色んな模様
色んな色
鯉は
駢買いね



みんな仲良く
暮らしてる
様々だけ
ど



人間は愚か
作者も含めて
とても全部
描き切れない
それに比べて

つやまあきひこウェブサイト
21世紀絵コロシアム <http://www.21eco.net>

「動物（アニマル）に水の浄化を助けてもらうというところにいちばん驚きました」

1990年代、たしかカリフォルニアで環境保護団体の中心をされている方をご案内し、保護区で続けている食物連鎖の復活をもととした水質浄化の様子を見ていただいた時のこと。「どうして？人間も動物のひとつでしょう？」なにげなくそうお返事した時に、相手の方が心底仰天された様子にほんとうにびっくりしました。「Why? Human being is not animal?」たしかそんな言い方をしたと思うのですが、何かものすごく失礼なことを言ったのだろうか、と後々まで悩みました。欧米、というよりキリスト教の世界には、人間と他の動物とは根本的に異なる存在、という意識が強いのではないかと思います。ヒューマニズム思想の中にある独善と言ってよいのか。

「スミ、あなたの宗教は何？」これもジョージに聞かれたこと。ジョージも、奥様の故松本恭子さんも熱烈なクリスチャンです。私は三代続くクリスチャンの家系で、幼児洗礼を受けているのですが、キリスト教（真剣に学んだわけではありません）にはどうしても馴染めない部分がありました。

「アニミズム」と答えました。「すべてのものには魂がある。太陽にも、空気にも、鳥にも虫にも、その辺の小石にも、このテーブルにも。私はそう信じているの。というより、そう感じている。魂（ソウル）と存在（ビーイング）を同じように捉えているのかな。とても原始的な考え方だけれど」

私は英語が苦手です。翻訳本（共訳）を2冊出版していただき、出版はできないまま、ウェブサイト「小説家になろう」に「鳥と人とハーバート・アクセル自伝」を発表しているにもかかわらず、です。翻訳という作業をするのは、いちいち訳さないと読みたい本を読むことができなかつたため。英語のままですら本が読めて、意味がしっかり頭に入るのなら、こんな厄介な作業をしようとは思わなかつたかもしれません。会話もむろん苦手。

ジョージやバート（アクセルさん）は、英語がわからない人と話すことにとっても慣れておられました。「ゆっくり、はっきり、簡単な単語で」そうお願いしてどうにか会話が成り立つのですけれど、亡夫嘉彪などは、ろくに話せもしないのに（私よりは若干マシだった）、それでも英語で駄洒落を言おうとするのです。要は、気持ちが通じ合うことなのでしょう。

そんな私ですが、日本語だと気恥ずかしくて話せないようなことが、かえって英語だとそのものずばりの表現ができてしまうことがあるのかもしれませんが。日本人の特質が先にあげたような会話から垣間見えて、環境問題にも日本人としての視点が大切なのかな、と思う時があります。

【発送お手伝いのお願い】 ニュースレター2022年12月号（第304号）の発送を12月7日（水）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。ただし新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか キリトリセン

住所 〒 _____

ふりがな
氏名 _____ Tel _____

E-mail _____ FAX _____

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記:11月3日に千葉県立中央博物館で開催された「自然誌フェスタ」に出展しました。ちば環境情報センターを含めて県内で活動する、環境・生きもの・地質・福祉などをテーマに活動する9団体が実物展示やパネルで紹介しました。体験型ワークショップも行われ、当会も谷津田保全の紹介やドングリやじろべえ作りをこどもたち楽しんでもらいました。こうした官民一体のイベントが増えることはとても有意義なことですね。 mud-skipper

☆小学校田んぼ活動 報告：たんぼぼ

・あすみ小学校稲刈り(10月3日)

行く夏を惜しむような心地よい夏日でした。田植え直後からしばらく気温が下がり生長が心配されましたが、実りは良好な様子でした。大勢の保護者の方々にも参加頂き、とてもスムーズな作業でした。メダカやタニシたちと一緒に稲刈りをする様子には、子どもたちから驚きや感動の声があふれていました。

・大椎小学校の脱穀(10月26日)

雨降りの翌日、やや風があり肌寒く感じましたが、清々しい秋晴れでした。今回も大勢の保護者の方々に見守られて、子どもたちは伸び伸びと楽しそうに作業に勤しみました。一度経験を積んでいる6年生は手慣れたもので、藁藪の作業であつという間に長縄を完成させ、大縄跳びを始めました。多くの子どもたちがそれに参加したり、チームを組んで長縄作りに挑戦したり、終始明るく、楽しそうな声があふれていました。

【谷津田・季節のたより】

<下大和田町> 報告：田村光範

10月 田んぼは古代米の稲刈りが終わりました。10月は天候も良く、順調にオダ掛けで干せています。

モズのはやにえを見つけました。モズは捕えた獲物をその場で食べないで、木の棘などに突きさしておく習性があります。はやにえといい、昆虫の多い秋によく見かける行動です。

イノシシもよく見かけるようになりました。谷津田の動物たちは冬に向けた準備が始まっています。

<小山町>

9/30~10/1 ノシメトンボの大群飛来(赤シャツ親父)、10/2 アブラゼミ、ツクツクボウシ、エンマコオロギの共演(たんぼぼ)、10/15 小学校田んぼのすぐ近くでモズさん高鳴き(たんぼぼ)、10/22 季節外れのアブラゼミ、孤独に泣く?(赤シャツ親父)

【イベントのお知らせ】主 催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL.090-7941-7655 ,E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

<下大和田谷津田>

・[第285回 下大和田YPP(もみすり)]

日 時：2022年11月12日(土) 9時45分~15時 ※小雨決行

場 所：下大和田 伊勢戸銘木店(中野インター入り口近く)。参加者へは別途場所をお知らせします。

持ち物：マスク着用、長袖長ズボンの服装、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物。

参加費：米づくり年間参加者以外300円(小学生以上)

・[森と水辺の手入れ]

日 時：2022年11月20日(日) 9時45分~12時 雨天中止

内 容：田んぼの畦の整備をします。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費：無料

・[第7回 森の手入れ]

日 時：2022年11月27日(日) 9時45分~12時 雨天中止

内 容：森の散策路の整備をします。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・[第275回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い]

日 時：2022年12月4日(日) 9時45分~12時 雨天決行

内 容：木々の黄葉を楽しみながら冬越しにやってきた鳥たちを求めて谷津をめぐります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋

・[第286回 下大和田YPP(収穫祭)]

日 時：2022年12月10日(土) 9時45分~14時 雨天中止

場 所：下大和田 わいわい広場

内 容：今年最後のイベント、みんなで育てた緑米を使っておもちつきをして収穫を祝います。藁を編んで正月飾りを作ったり的当てゲームなど行います。 ※新型コロナウイルス感染状況により内容変更あり

持ち物：お椀とお箸、マスク着用、長袖長ズボンの服装、帽子、ゴミ袋、飲み物、敷物。

<小山町谷津田>

▼第209回 小山町 YPP「糶摺り作業」

日 時：2022年11月26日(土) 8時30分~ ☆雨天中止

場 所：集合場所 りんどう広場、実施場所 土気NGO・古民家 ※一般の方の参加も若干名受付ます。

参加ご希望の方は、赤シャツ親父(e-mail; tomizo_i@nifty.com)までご連絡下さい。

